

1年生から興味のある分野の研究室を体験できる『Student Lab』がおすすめ!

医学部 医学科 2年
鈴木 宙奈 (すずき ひろな)

医学部では、1年生の時から興味のある分野の研究室で先輩や先生方の研究を見学したり、様々な実験の方法を覚えてもらい、スキルを習得できる『Student Lab』という制度があります。この『Student Lab』に参加し、ウイルスに関する研究を行っているという鈴木さん。主にHIVウイルスの分子構造など、遺伝子やたんぱく質の観点から勉強しているといいます。

「医学部は3年生の時に医学研究実習があって、そこで学生がそれぞれの基礎か臨床の研究室に配属し、9カ月くらい研究を行って、最後ポスターにまとめて発表するというカリキュラムがあるんですが、1年生の頃からいち早く興味のある分野に触れ、親しみを持つことができるのがいいところですね。」

2年生になってからは解剖実習などで忙しく、研究室へはあまり行けていないそうですが、去年は実験器具の扱い方や安全な操作方法、遺伝子発現を見るルシフェラーゼアッセイなどの実験技術について教えてもらい、とても勉強になったと話してくれました。

研究への理解と関心が深まり、ゼミにもいち早く馴染める

『Student Lab』に入るには、まずは説明会に参加を。そこで参加希望者を募り、その後、研究倫理を勉強し、テストを受けて、晴れてStudent Lab生として登録してもらおうことができます。Student Lab生の多くは基礎医学系の研究室を希望するそうですが、病理学の研究室やスポーツ医学といった研究室に入りたいという人もいて、専門的に学びたい分野に入学してすぐ関わる事ができるので、面白さが増すといえます。

しかし『Student Lab』を利用

する学生は意外と少なく、2年生の登録数も十数名。『Student Lab』は放課後の時間を使って自主的に行うので、部活やアルバイト、他の勉強も忙しく、時間の確保が難点です。

「2月から研究実習がだんだんスタートして行きます。研究室の先輩方や同期と情報交換しつつ、他の先輩方が終わらせられなかった研究テーマもあるので、その続きもちょっと考えてみたいと考えています」という鈴木さん。早く始めることで、いろいろなチャンネルも増える『Student Lab』。医学部生はぜひ利用して。



鈴木さんはウイルスに関する研究を行っている野間口先生の研究室へ通っています。「高校時代に、ウイルスは生物でもない、かといって無生物でもないと感じました。すごく特殊な物質というか生き物と言うか、難しい存在だなと思って興味を持ちました」。

サークル活動が卒業生制作のヒントに カラーユニバーサルデザインへの挑戦

総合科学部 社会総合科学科 3年
平尾 更紗 (ひらおさらさ)

映像・デザイン、美術教育、メディアアートなどを学ぶ佐原先生のゼミに所属する平尾さんが、卒業研究にしようと思っているのが、カラーユニバーサルデザインです。カラーユニバーサルデザインをテーマにしようと思ったきっかけは、サークル活動。学内で配布しているフリーペーパー『らぱっと』の編集部で活動し、「いかに可愛く作るか」と誌面デザインに悪戦苦闘していたときにふと、「誰もが読みやすいデザインとは…」と、思い、何気なく風景の一部として捉え、不自由していなかったものが、多くの人にとって見やすいものかと考えるようになったといいます。

「色盲、色弱の人は、日本人男性の5%、女性の0.2%程度で、1クラス(40人程度)に1人はいる割合です。男性の5%という数字は血液型でいうとA B型の

男性人数とほぼ同じ割合にいるようなんですが、認知が広まってないのが課題です。自分が色盲、色弱ということも気付きにくく、『黒だと思って書いていたら赤だった』と周りから指摘されて気付くケースもあるそうです。卒業制作として、学内の地図やサイン(表示)をカラーユニバーサルデザインに合わせ表示し直したものを作ろうと、論文を読んだりしながら知識を深めています。そうしたデザイン活動は悪い部分を発見・分析して処方箋を提案する医療のような活動だといいます。

ユニークな視点が満載 学生卒業生グループ展を 乞うご期待!

このようなデザインと医療が結びつくことに気付く体験は他にも。白黒写真をフォトショップ(画像

編集・デザインソフト)でカラーに色づけしたものを、認知症の方に見てもらい、記憶を刺激する回想法的な取り組みも行いました。

最近研究室で行った実験では、写真を素材とし、手を動かして触り色づけする表現活動をするとして、次にその写真を見ただけの場合でも脳内の触覚野に触覚刺激を再生することがわかっているそうです。そうした研究成果を医療分野にも展開しているといいます。また今、3年生は4人いて、それぞれが卒業制作のためにコスメのパッケージデザインやフィルムカメラを用いた映像制作、ジェンダーをテーマにした広告制作など、それぞれが自由に制作を行っています。平尾さんたちの作品が完成するのはまだ先ですが、毎年、2月頃にガレリア新蔵でゼミの学生・卒業生グループ展が開催されているので、ぜひご覧ください。



佐原先生のゼミはユニークで、毎週突発的に「これしよう!」と提案があるのでか。最近ではフィルムカメラで撮影し、自分たちで現像するという作業を体験。



My Life Situation

部活: らぱっと編集部
アルバイト: カフェ勤務
趣味: 散歩

3年生のうちから毎月1回、卒論をテーマに発表があり、卒業制作に関しても早いスピードで進行中。「佐原先生の引き出しが多いので、ちょっと相談したら、いろんな角度からポンポンと答えが返ってきて、それをもとにまた自分で考えて…を繰り返しながら進めています」。ひとつに固執せず、多様な実践の中で得られた知識をパフォーマンスできるような学びです。人形浄瑠璃で入学案内の映像制作を行うなど、多彩なきっかけがあるのが、佐原ゼミの魅力。

